

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 木村 満 様 あて名 〒101-0054 日本国東京都千代田区神田錦町二丁目7番地 協販ビル2階		PCT 国際調査機関の見解書 （法施行規則第40条の2） [PCT規則43の2.1]	
		発送日 (日.月.年) 06.02.2018	
出願人又は代理人 の書類記号 16P31-PCT		今後の手続については、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2017/041723	国際出願日 (日.月.年) 20.11.2017	優先日 (日.月.年) 30.11.2016	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H04W28/18(2009.01)i, H04L1/00(2006.01)i, H04L1/16(2006.01)i, H04W24/08(2009.01)i			
出願人 (氏名又は名称) サイレックス・テクノロジー株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。 <input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎 <input type="checkbox"/> 第II欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成 <input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の欠陥 <input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願についての意見
2. 今後の手続 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。 この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。 さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

見解書を作成した日 22.01.2018			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 石田 昌敏 電話番号 03-3581-1101 内線 3576	5W	4181

第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。
 - 出願時の言語による国際出願
 - 出願時の言語から国際調査のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
2. この見解書は、PCT規則 91 の規定により国際調査機関が許可した又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した (PCT規則 43 の 2.1(b))。
3. この国際出願で開示されたヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下の配列表に基づき見解書を作成した。
 - a. 出願時における国際出願の一部を構成する配列表
 - 附属書C/ST.25テキストファイル形式
 - 紙形式又はイメージファイル形式
 - b. 国際出願とともに、PCT規則13の3.1(a)に基づき国際調査のためにのみ提出された、附属書C/ST.25テキストファイル形式の配列表
 - c. 国際出願日後に、国際調査のためにのみ提出された配列表
 - 附属書C/ST.25テキストファイル形式(PCT規則13の3.1(a))
 - 紙形式又はイメージファイル形式(PCT規則13の3.1(b)及びPCT実施細則第713号)
4. さらに、複数の版の配列表又は配列表の写しが提出され、変更後の配列表又は追加の写しに記載された情報が、出願時における配列表と同一である旨、又は出願時における国際出願の開示の範囲を超えない旨の陳述書の提出があった。
5. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求項	1-6	有
	請求項		無
進歩性 (I S)	請求項	1-6	有
	請求項		無
産業上の利用可能性 (I A)	請求項	1-6	有
	請求項		無

2. 文献及び説明

- 文献 1 : JP 2005-039722 A (日本電信電話株式会社) 2005. 02. 10, (ファミリーなし)
 文献 2 : JP 2007-306423 A (三菱電機株式会社) 2007. 11. 22, (ファミリーなし)
 文献 3 : JP 2010-098739 A (住友電気工業株式会社) 2010. 04. 30, & US 2010/0128705 A1
 文献 4 : JP 2009-049829 A (日本電信電話株式会社) 2009. 03. 05, (ファミリーなし)
 文献 5 : WO 2016/156766 A1 (株式会社東芝) 2016. 10. 06, & JP 2017-526274 A

請求項1-6に係る発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、新規性、進歩性を有する。特に、「他の無線通信装置へ向けて第1フレームを複数回送信した場合の、前記第1フレームの送信後予め設定された第1基準時間内に前記他の無線通信装置から確認応答フレームを受信する確率である送信成功確率を算出し、第2基準時間内における前記第1フレームの送信試行可能回数を算出し、前記送信成功確率と前記送信試行可能回数とから、前記第2基準時間内で前記第1フレームを前記送信試行可能回数だけ繰り返し送信しても前記他の無線通信装置から前記確認応答フレームを受信しない確率であるタイムアウト発生率を算出し、前記タイムアウト発生率が予め設定された発生率閾値以下であるか否かに応じて前記他の無線通信装置との通信に用いる符号化・変調方式を選定する」構成は、何れの文献にも開示されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないものである。